

3.2 ゾーニング

3.2.1 保全計画におけるゾーニング

- 青梅の森の谷津^{*3} や稜線^{*2} などの地形、植生や注目される動植物分布、維持管理や利用方法などを考慮して以下の5つのゾーンに区分した。

(1) 各ゾーンの特徴

1) Aゾーン：(仮称) 森林保全ゾーン

黒沢川流域の急斜面地を中心としたゾーン

- 青梅の森内の西側に位置し、ゾーンの南側は東京都立青梅総合高等学校の演習林に隣接しており、西側は黒沢川沿いの住宅地に隣接している。
急斜面が多く、谷筋を中心とした斜面に人工林^{*7} が分布している。

2) Bゾーン：(仮称) 森林ふれあいゾーン

大日沢と後沢を中心としたゾーン

- 青梅の森内の北側に位置し、旭ヶ丘団地や多摩団地に隣接している。急斜面が多く、人工林が多い。水辺では注目される水生生物が確認されている。

3) Cゾーン：(仮称) 里山学習ゾーン

北谷津を中心としたゾーン

- 青梅の森の中央に位置し、ゾーンの東側が農家や農地に隣接しており、青梅の森の中では最も里山^{*16}の風情がある場所となっている。
地形は比較的緩やかであり、青梅の森内最大の谷津（北谷津）が入り込む等、複雑な地形を呈している。植生は広葉樹林が多く、比較的まとまったアカマツ林がある。
水辺の生き物が豊かなゾーンで、数多くの注目される種を含む動植物が確認されている。

4) Dゾーン：(仮称) 谷津の保全ゾーン

北ノ入を中心としたゾーン

- 青梅の森内の南側に位置し、細長い谷津（北ノ入）が入り込み、北側や南側は急斜面で、日当たりの少ない水辺・湿地が続く。植生では谷津の北側に人工林が多く、西側と南側に広葉樹林が多い。また、水辺では注目される野生生物が確認されている。

5) Eゾーン：(仮称) 里山ふれあい活用ゾーン

南谷津を中心としたゾーン

- 青梅の森内の東側で市街地に隣接し、複数の尾根が張り出しており、緩傾斜地もある。
植生は広葉樹林が多く、アカマツやモウソウチク林がある。尾根部を除いて林床^{*13} にアズマネザサが多い。
なお、縄文期の埋蔵文化財や昭和初期の庭園跡がある。

